

ふりがな 氏名	このき りゅうたろう 此木 隆太郎
学位の種類	博士（歯学）
学位記番号	甲 第 948 号
学位授与の日付	令和 5 年 3 月 3 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項に該当
学位論文題目	The significant improvement of tongue pressure after implant-supported prostheses (インプラント補綴治療による舌圧の改善)
学位論文掲載誌	日本口腔リハビリテーション学会雑誌 第 35 巻 第 1 号 令和 4 年 12 月 25 日
論文調査委員	主査 馬場 俊輔 教授 副査 橋本 典也 教授 副査 柏木 宏介 教授

#### 論文内容要旨

インプラント治療は欠損補綴の選択肢として普及してきているが、その口腔機能への影響についての報告は少ない。そこで本研究では、インプラントによる欠損補綴治療と咬合・嚥下機能との関連性について検討することを目的とした。特に、口腔機能を客観的に評価する方法の一つとして注目されている舌圧に着目し、インプラント治療がもたらす影響について検討を行った。

本学歯学部附属病院口腔インプラント科を受診し、インプラント欠損補綴治療を受ける満 20 歳以上の患者 20 名を対象とし、咬合機能、舌圧について検討した。咬合機能の評価は、咬合力測定システム用フィルム（デンタルプレスケール II）および咬合力分析ソフト（バイトフォースアナライザ）を用いて、咬合表示面積、平均圧、最大咬合圧、咬合力の測定により行った。舌圧は、JMS 舌圧測定器を用いて測定した。また、GOHAI 調査票を用いて口腔健康関連 QOL についても検討を加えた。それぞれ、補綴物装着前、補綴物装着直後、メンテナンス期間（1 か月、3 か月、6 か月、12 か月）に測定を行い、統計学的解析を行った。

咬合表示面積、平均圧、最大咬合圧、咬合力は測定期間において統計学的に有意差を認めなかった。一方、最高舌圧はインプラント欠損補綴治療によって有意に上昇した。さらに、欠損形式別の解析を行った結果、最高舌圧は遊離端欠損症例では有意に上昇したが、中間欠損症例では有意差を認めなかった。また、口腔健康関連 QOL も有意に改善が認められた。

舌は咀嚼や嚥下に大きくかかわっており、舌圧の低下と嚥下障害との関連性が報告されている。インプラントによる欠損補綴治療によって、最高舌圧が上昇することが示されたことから、口腔機能維持向上にインプラント治療が有用である可能性が示唆された。

## 論文審査結果要旨

著者の本研究では、インプラントによる欠損補綴治療と咬合・嚥下機能との関連性について検討することを目的とした。特に、口腔機能を客観的に評価する方法の一つとして注目されている舌圧に着目し、インプラント治療がもたらす影響について検討を行った。

その結果、咬合表示面積、平均圧、最大咬合圧、咬合力は測定期間において統計学的に有意差を認めなかった。一方、最高舌圧はインプラント欠損補綴治療によって有意に上昇した。さらに、欠損形式別の解析を行った結果、最高舌圧は遊離端欠損症例では有意に上昇したが、中間欠損症例では有意差を認めなかった。また、口腔健康関連 QOL も有意に改善が認められた。

舌は咀嚼や嚥下に大きくかかわっており、舌圧の低下と嚥下障害との関連性が報告されている。インプラントによる欠損補綴治療によって、最高舌圧が上昇することが示されたことから、口腔機能維持向上にインプラント治療が有用である可能性が示唆された。

以上、これらの観点から、本論文は博士（歯学）の学位を授与するに値すると判定した。